

鉍工業プロジェクト形成基礎調査
(フィリピン共和国生産統計開発計画)
報 告 書

平成 12 年 5 月

国際協力事業団

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査団構成	1
3. 調査日程	1
4. 主要面談者	3

第2章 調査結果

1. 開発調査の枠組み	7
(1) 開発調査全体の枠組み	7
(2) システム開発	8
(3) 「生産動態統計調査」と現行の月次調査との関係	9
2. 開発調査の内容	10
(1) 開発調査の目的	10
(2) 開発調査の範囲	10
3. 「生産動態統計調査」及び「指数」の内容	11
(1) 生産動態統計調査と現行のMISSIとの関係	11
(2) 調査項目	11
(3) 生産動態統計調査の範囲	12
(4) 生産動態統計の対象事業所	12
(5) 生産動態統計調査の公表	12
(6) 工業指数の開発	12
4. その他、フィリピン側と協議した結果	13
(1) 共同作業の条件	13
(2) 機材の供与	13

附属資料

1. Minutes of Meeting	15
2. フィリピン生産統計の現状	25
3. Memorandum of Understanding - Monthly Integrated Survey on Selected Industries (MISSI) . . . [MISSI実施に関する覚書]	71
4. Executive Order - Strengthening the National Statistics Office . . . [NSO強化に関する施行令]	77
5. INDUSTRY TREND . . . [MISSI出版物]	81

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

持続的な経済発展のためには、適切な産業政策の策定・実行が必要である。産業政策策定に際しては、景気動向や当該産業の動向を的確に把握することが求められる。今日の経済のグローバル化により、途上国においても、景気や産業の動きが目まぐるしく変化するようになり、その動向を正確かつ迅速に把握することが一層必要とされている。

品目ベースの工業生産、出荷、在庫の状況を表す生産動態統計及びこれを基に作成される工業生産指数は、直近の景気の動向を判断する上で重要な経済データであり、政府にとってマクロ経済政策策定・産業政策策定に不可欠な指標である。また、企業の生産計画や設備投資計画の判断材料として、内外の投資家の投資判断材料として、さらには、大学や研究者のさまざまな調査研究等に広く活用されている。

フィリピンにおいても、信憑性、速報性を有した生産統計の整備は急務の課題となっており、アジア経済危機以降、その必要性は更に高まっている。1997年9月、鉱工業プロジェクト形成基礎調査団（派遣国：タイ、フィリピン）を派遣した結果、同国における生産統計の整備に対するニーズは高く、同国政府は開発調査による協力に対し高い関心と期待を有していることが確認された。また、先方の希望する技術協力の内容が、開発調査で対応可能であることも同時に確認された。同国政府は、調査団派遣時の協議を踏まえ、1999年（平成11年）度案件として、日本政府に対し、生産統計開発計画の正式要請書を提出してきた。

フィリピン側の正式要請提出後、同国の生産統計調査の方法が変更になったことから、事業団は、同国の生産統計に係る現状の調査等、開発調査実施に必要な情報の収集を行うとともに、開発調査の枠組みについて先方政府と協議を行うことを目的として、鉱工業プロジェクト形成調査団を派遣した。

2. 調査団構成

顧問	古河 俊一	タイ国家経済社会開発庁アドバイザー
団長・総括	太田 博親	通産省調査統計部企画・国際室国際統計班長
統計行政	新井 勝美	通産省調査統計部企画・国際室統計指導官
調査企画	朝熊由美子	国際協力事業団鉱工業開発調査部工業開発調査課
統計調査	柳澤 光保	テクノファイン株式会社
コンピューターシステム	橋本 秀久	テクノファイン株式会社

3. 調査日程

2月21日(月) 東京発 マニラ着 JL741
 バンコク発 マニラ着 TG620【古河顧問】
 団内打合せ

2月22日(火) JICA フィリピン事務所と打合せ
 在フィリピン日本大使館表敬
 在フィリピン日本大使館・JETRO マニラ・センターと打合せ
 国家統計局と協議

2月23日(水) Sharp (PHILS.) Corporation 訪問調査
 国家経済開発庁と協議

2月24日(木) 在フィリピン日本大使館他関係者と打合せ
 貿易産業省と協議
 国家統計調整委員会と協議
 国家統計局訪問調査

2月25日(金) 資料整理・報告書作成

2月26日(土) 資料整理・報告書作成

2月27日(日) 資料整理・報告書作成

2月28日(月) 国家統計局訪問調査
 NTC Philippines Inc.訪問調査
 国家統計局と協議

2月29日(火) 国家統計局訪問調査
 JETRO マニラ・センターと打合せ

3月 1日(水) Fujitsu Philippines, Inc. 訪問調査
 国家統計局訪問調査
 マニラ発 バンコク着 TG621【古河顧問】

3月 2日(木) 国家統計局訪問調査

3月 3日(金) 国家統計局訪問調査

3月 4日(土) 資料整理・報告書作成

3月 5日(日) 資料整理・報告書作成

3月 6日(月) H.R. Lopez Co., Inc.訪問調査
 国家統計局訪問調査

3月 7日(火) フィリピン統計協会訪問調査
 Kawasaki Steel Corporation 訪問調査
 IONICS Circuits, Inc.訪問調査

3月 8日(水) 国家統計局と協議
 フィリピン中央銀行訪問調査

3月 9日(木) 国家統計局訪問調査

3月10日(金) JETRO マニラ・センター訪問調査
 Fujitsu Philippines, Inc.訪問調査

Semiconductor and Electronics Industries in the Philippines, Inc. 訪問調査

3月11日(土) 資料整理・報告書作成

3月12日(日) 資料整理・報告書作成

3月13日(月) 国家統計局と協議
Geodata Systems Technologies, Inc. 訪問調査
Corporate Information Solutions, Inc. 訪問調査

3月14日(火) 国家統計局訪問調査

3月15日(水) National Computer Center 訪問調査
東京発 マニラ着 JL741【朝熊団員】
JICA フィリピン事務所と打合せ

3月16日(木) 国家統計局と協議
Software Venture International Corporation 訪問調査

3月17日(金) 国家統計調整委員会と協議
国家統計局と打合せ
フィリピン大学訪問調査

3月18日(土) 資料整理・団内打合せ

3月19日(日) 資料整理・団内打合せ

3月20日(月) 国家統計局と協議
貿易産業省と協議
国家統計調整委員会と協議

3月21日(火) 国家統計局と協議・協議議事録署名
在フィリピン日本大使館報告

3月22日(水) JICA フィリピン事務所報告
マニラ発 東京着 JL742

4. 主要面談者

National Statistics Office: NSO 国家統計局

Mr. Tomas P. Africa	Administrator
Ms. Marietta P. Morada	Officer in Charge, Industry and Trade Statistics Dept.
Ms. Lourdes V. Homecillo	Stastician IV, Industry Statistics Division
Ms. Ester F. Abitona	Chief, Economic Indices and Indicators Division
Ms. Janie R. Ybanez	Statistician IV, Economic Indices and Indicators Division
Ms. Gina A. Perido	Statistician III, Economic Indices and Indicators Division
Ms. Katrina G. Esclamad	Statistician V, Business & Services Statistics Divison
Ms. Valentino C. Abuan	Director, Information Resource Dept.
Ms. Veronica P. Pido	OIC, Information Technology System's Research

Ms. Franz Nepomuceno	Regional Director, National Capital Region
Mr. Eusebio R. Fabboa	OIC, P.S.O, National Capital Region I- District
Ms. Faith F. Rocamora	Statistical Coordination Officer II, NCR II, District II
Ms. Estrella R. Vargas	STAT II, NCR II, Quezon City
Ms. Cymtha S. Latina	SCO II, NCR I, Manila
Mr. Hilarlon P. Olvena	OIC(Pnouncan Statistics Office),NCR, District II, Quezon City
Mr. Efren C. Armonia	Statistician III, Director's Office, ITSD
Mr. Dennis E. Sorino	Statistician I, Director's Office, ITSD
Mr. Florante C. Varonz	Statistician II, Director's Office, ITSD
Mr. Robert Coronado	Computer Programmer II, Information Resource Department

National Statistical Coordination Board: NSCB 国家統計調整委員会

Mr. Francisco K. Mallion	Director, Statistical Programs and Resource Management Office
Ms. Lina V. Castro	Assistant Director, Statistical Programs and Resource Management Office
Ms. Estella V. Domingo	Director, Economic and Social Statistics Department
Ms. Sovora B. De Costo	OIC Chief, BCO-B Division, BPRMO
Ms. Chita S. Marzan	Chief, Statistical Coordination Officer VI
Ms. Celia R. Guevarra	Statistical Coordination Officer III, Economic Sector B Division

Department of Trade and Industry: DTI 貿易産業省

Mr. Alfredo M. Torres	Director, Management Information Service
Ms. Susan G. Baltazar	Division Chief, Management Information Service
Ms. Almira Asilo Martilino	Sr. Trade and Industry Division Specialist, Management Information Service

National Economic Development Authority: NEDA 国家経済開発庁

Ms. Cristina Santiago	Senior Economic Dev't Specialist, Asia Pacific Div.
Ms. Vanessa Angus Dimaano	Economic Development Specialist, Asia Pacific Div.
Mr. Jones T. Morco	Supervising Economic Dev't Specialist, Macroeconomic, National Planning and Policy Staff
Ms. Leticia Pardinas	Sr. Economic Dev't Specialist, Macroeconomics, National Planning and Policy Staff

Central Bank of the Philippines

Ms. Ludivinia D. Gador	Bank Officer V, Dept. of Economic Research
------------------------	--

Philippine Statistical Association, Inc.

Ms. Ma. Celeste M. Molina	Managing Director
---------------------------	-------------------

Mr. Frederick B. Sta. Maria Manager, Consultancy and Technical Services

University of the Philippines, Diliman

Dr. Elvira A. Zamora Dean, College of Business Administration

National Computer Center

Ms. Juria E. Sudario Director, Program Coordination Directorate

Ms. Rachel E. Saldariega Acting Director, National Computer Institute

Ms. Grace Martiaa T. Amberong Head, National Computer Institute

在フィリピン日本大使館

堺井 啓公 二等書記官

日本貿易振興会（JETRO）マニラ・センター

斉藤 俊樹 所長

白石 薫 Director

金沢 信 Director

フィリピン日本人商工会議所

Mr. Yamada Secretary General

Sharp (PHILS.) Corporation

Mr. Shigeo Kashimi President and General Manager

Mr. Teruhiko Muto Senior Manager, Production Control Dept.,

Mr. Yuji Baba EVP and Group General Manager, Director, Treasurer

Fujitsu Philippines, Inc.

壺谷 重男 President

三木 惇裕 Manager

Mr. Akihiko Tanaka Technical Support Director

Ms. Ma. Aurora H. Asuncion Manager, Corporate Solutions Integration Sector

Mr. Lerdel T. Laigo Senior Account Manager, Japanese Accounts Division

Mr. Geoffrey W. Hirao Account Manager, Japanese Accounts Division

WESERV Systems International, Inc.

Mr. Masaaki Aoshima Quality Assurance Manager

Ms. Gwendlyn Sebastian Senior Manager, Application Solutions Group

NTC Philippines Inc.

Mr. Takeo Yamamoto VP Treasurer
Ms. Miki Ozaki System Development

Kawasaki Steel Corporation
新宮 和周 Assistant Manager

H. R. Lopez Co., Inc.
Mr. Marianito G. Rivera Vice President, Engineering-Construction
Mr. Pelipede Vera Civil Engineer

IONICS Circuits, Inc.
Ms. Judy C. Qua VP Corporate Affairs

Semiconductor and Electronics Industries in the Philippines, Inc.
Mr. Ernie B. Santiago Executive Director
Mr. Gay Amistoso Communications and Business Development Manager

LABTECH Manufacturing Industries, Inc.
Mr. Julius Labrador President

Geodata Systems Technologies, Inc.
Mr. Alberto L. Morales President
Ms. Francisca N. Dayrit Executive Vice-President

Corporate Information Solutions, Inc.
Mr. Renato G. Cunanan Senior Manager, Philippine Marketing Operation
Mr. Licerio F. Javalera Account Manager, Banking, Finance and Government

Software Venture International Corporation
Mr. Manolito T. Tayag Vice President
山口 勝巳 Business Analyst

国際協力事業団フィリピン事務所
小野 英夫 所長
勝又 晋 Assistant Resident Representative
Ms. Mima C. Bautista-Macahilig Project Liaison Officer

第2章 調査結果

今次調査の結果、同国の貿易自由化の進展を背景として、品目ベースの月次生産動態統計と生産指数に対する官民のニーズが更に高まっていること、また、月次生産動態統計調査実施や指数算定のための基礎的なデータは整っていることが確認された（これら詳細は、附属資料2「フィリピン生産統計の現状」参照）。

それらを踏まえた結果、開発調査の内容は品目ベースの月次生産動態統計と生産指数の開発として、日比双方は概ね合意に至った。その他、以下に記載の内容で先方と合意し、3月21日、国家統計局（National Statistics Office: NSO）アフリカ長官と調査団長との間で、協議議事録（Minutes of Meeting: M/M）の署名を行った（M/Mは附属資料1のとおり）。

フィリピン側との協議の結果は、以下のとおりである。

1. 開発調査の枠組み

開発調査の枠組みは「品目ベースの月次生産動態統計と生産指数の開発」として、双方合意した。主な合意事項及びそれに至る経緯の内容は、以下のとおりである。

（1）開発調査全体の枠組み

NSOと協議した結果、開発調査の目的は、当初方針どおり「生産動態統計調査及びそれを基に作成される指数の開発」として合意した。

新しい統計調査を開始するには、その予算の獲得が必要であるが、現段階では、NSOの新規予算の獲得は保証されておらず、場合によっては、開発調査が終了しても、NSOが実施予算を確保できず、「生産動態統計調査」がすぐに実施できない可能性も否定できないことが明らかになった。

従って、当初は、システム開発を含めた開発調査の実施を計画していたが、現段階で、システム開発や、「生産動態統計調査」をNSO側が開始しなければ実施することが困難な内容（生産動態統計調査の検証・改善、各種指数の検証）までを含める開発調査の実施を約束することは、リスクが高いことから、調査を2つのフェーズに分け、第1フェーズでは、生産動態統計調査の開発、各種指数の開発を行い、第2フェーズで、システム開発、生産動態統計調査の検証・改善、各種指数の検証を行うこととした。

但し、フェーズ2については、以下の3点を実施の条件とした。

－フェーズ1が成功裏に終了すること

－フィリピン側が生産動態統計調査実施の予算を確保し、継続的に調査を実施すること

ーフェーズ2のシステム開発は、日本側のみで実施すること¹

実施の是非及び実施する場合の内容については、再度、フィリピン側・日本側双方にて協議を行うこととした。

(2) システム開発

システム開発について、NSO側は、システム開発は、外部コンサルタントに発注するのではなく、NSOのシステム部門に発注し（NSOはシステム開発を内部製作のみで行っており、外部発注は行っていない）、システム開発を「共同作業」で実施することを切望した。

これに対し、調査団は、直接のカウンターパートに委託費は払えないこと、また、このような条件では、日本側のコンサルタントの業務量が明確にならず、責任の所在もはっきりしない²ことから、コンサルタントへの発注が困難であることを説明した。

併せて、フィリピン側は、システムのユーザー（統計官）や管理者に対する技術移転だけではなく、プログラミング技術そのものに関しても、技術移転の対象とすることを要望したが、日本側としては、「本調査の目的は生産動態統計調査と指数の開発であり、コンピューターシステムはツールである。従って、プログラミングは日本人コンサルタントによってなされ、プログラミング技術は技術移転の範囲外である」と説明を行った。

また、フィリピン側は、システム開発では、開発調査終了後の維持コストが高価であることから、市販ソフトを用いず、公共のソフトやインターネット上で無償で提供しているソフトを用いてほしい、と希望した。これに対し、日本側は、市販ソフトを用いない開発という条件を付けた場合、コンサルタントが実施可能かどうかは明確ではなく、コンサルタントが受注できない開発調査では、調査の実施自体ができなくなる、という点について説明を行い、結論として、現段階では即答しかねると回答した。

エクセル、アクセス、SQLサーバーといった市販ソフトを使用しなければ、日本の統計のノウハウを活かしたシステムの開発不可能である。なお、これらのソフトウエアのメンテナンス・フィーは不要である。この点は、相手側がよく理解していない可能性もあるものと思われる。

フィリピン政府内では、アメリカ政府がインターネット上で無償で提供している「Integrated Microcomputer Processing System: IMPS」を用いて、統計システムを統一化する動きが本格化している。IMPSの使用するかどうかについては、現段階では「義務ではない」とフィリピン側は説明しているが、フェーズ2実施の段階で、再び、先方から、IMPSを使

¹ 詳細は「(2) システム開発」参照

² 例えば、C/Pがプログラミング中にシステムを壊した場合、コンサルタントがその修復責任を行わねばならないことを、コンサルタントは懸念している。外部コンサルタントと契約し、彼らが壊した場合には、外部コンサルタントの責任で修復される。

用してほしいという要望が出る可能性は十分にあり得るものと思われる。IMPS は、エクセル、アクセス、オラクルといった汎用ソフトのように、日本では普及しておらず、しかも統計専門のソフトであることから、日本のコンサルタントがこのソフトを使用するという条件で、業務を遂行することができるかどうかは、フェーズ2 実施の際には、慎重に検討する必要がある。

フィリピン側の「プログラミング作業自体も共同作業で行い、その中でプログラミングの技術移転も実施してほしい」という意向を尊重する場合、日本側としては、一部分については、開発調査以外のスキームによって支援し、開発調査と連携する、という方法についても、検討することが望ましいと思われる。

日本側は、システム開発は、システム設計、システム開発、プログラミング、の3段階があり、システム設計については、共同作業によって行われる³⁾が、それ以降については、共同作業では行わないことを言及するとともに、最終的には、フェーズ2 の実施の際に、双方で協議を行うこととなった。

(3) 「生産動態統計調査」と現行の月次調査との関係

開発調査で作成する「生産動態統計調査（詳細な内容は、「3. 「生産動態統計調査」及び「指数」の内容」参照）」の実行については、日本側は、NSO が現在実施している「月次特定産業統合調査（Monthly Integrated Survey of Selected Industries: MISSI）」（その現状と課題は、別添資料参照）に統合するのではなく、新たな統計調査として実施した方が適当であると提案した。その主な理由は、現行の調査と「生産動態統計調査」は必ずしも目的が一致していないため（例えば、労働や賃金に関する細かいデータの記載には時間を要するため、速報性が「命」である生産動態統計調査と同一調査票で実施することは適当ではない）、一本化した場合に問題が生じる恐れがあることによる。また、「生産動態統計調査」で想定される調査項目は、既存の MISSI と重複するものもあるため、記入者負担の軽減のため、最終的には、既存の MISSI の当該項目を削除するという方法が適当であると考えている。

これに対して、フィリピン側は、記入者の負担軽減の観点から、開発調査にて作成された「生産動態統計調査」は、MISSI と統合することを提案した。但し、その場合には、新 MISSI の調査票を、労働や賃金に関する詳細なデータを記載する部分と、「生産動態統計調査」に係わる部分とに分離することについては、非公式ながら同意を得た。

³⁾ 但し、開発調査の規模や期間の問題から、最終的には決められる。

⁴⁾ 既存の MISSI の調査票には、品目別の生産数量、生産金額を記載する欄があるが、事業所からの回答では、数量は記載されていない上、金額についても、事業所に記載させているだけで、データとしての処理はまったくなされていない。

この件に関しては、合意に至らなかったため、今後の協議の場で、議論されることとした。

2. 開発調査の内容

既述のとおり、開発調査は2フェーズで実施することとし、そのフェーズ1の内容としては、最終的には、調査団の当初方針どおりで合意した。

(1) 開発調査の目的⁵

開発調査の目的は、信頼性・速報性の高い月次生産動態統計調査と月次工業生産指数を開発することとして合意した。また、調査の過程を通じて、フィリピン側への技術移転も実施する。

(2) 開発調査の範囲

1) 生産動態統計調査の開発

- ・ 現行の統計調査のレビュー
- ・ 調査方法の検討
- ・ 調査対象業種、品目、事業所の選定
- ・ 調査票の作成
- ・ 調査実施要領・審査要領の作成
- ・ 調査票記入要領の作成
- ・ プリテストの実施（3ヶ月間、約600事業所に対して実施する）
- ・ プリテストの集計、分析、問題点等の洗い出し
- ・ 月間スケジュールの検討
- ・ 公表方法の検討
- ・ 月次生産動態統計実施計画の作成

フィリピン側からは、プリテスト実施をNSOに発注してほしい、との希望が述べられたが、最終的には、現行のMISSIの枠組みとは別に、ローカル・コンサルタントとの契約によって実施することで、双方合意した。

さらに、フィリピン側からは、プリテストだけでなく、実際の調査が開始するまでの

⁵ 以下、特記しない場合、「開発調査」は「フェーズ1」を指すものとする。

期間、「パイロット調査」と称して、引き続き、試行的に「生産動態統計調査」を日本の資金で実施するとともに、その間の技術移転を実施してほしい、との希望が寄せられたが、「実際の調査が開始するまでの期間」が明確ではない上、日本側の支援に限度があることから、最終的には、600事業所程度に対するプリテスト調査を、3ヶ月間実施することで了解を得た。

2) 指数の開発

- ・ 指数採用品目の選定
- ・ ウェイトの計算
- ・ 指数の開発
- ・ 公表方法の検討

3. 「生産動態統計調査」及び「指数」の内容

(1) 生産動態統計調査と現行の MISSI との関係

「1. 開発調査の枠組み (3) 「生産動態統計調査」と現行の月次調査との関係」に記述のとおり、開発調査で作成する生産動態統計調査と、現行の MISSI との関係については、双方の合意に至らなかったため、今後の協議事項となる。

現行の MISSI では、詳細な労働・賃金に関する調査項目があるが、これらの項目の改善についても、開発調査の対象とする場合には、かなりの業務量が必要とされることから、特に MISSI と統合する場合には、開発調査の範囲について、明確にする必要がある。

(2) 調査項目

生産動態統計調査は、品目別・数量ベースの調査とし、調査項目は生産数量・金額、出荷数量、在庫数量を基本とし、受入数量、国内販売・輸出・その他出荷に区別された出荷数量、月次生産能力については、実現性を考慮した上で、慎重に対応することとした。

フィリピン側は、産業構造が急激に変化し、下請けへの発注が進んでいることから、ある産業全体の雇用や労働生産性を把握する場合、大手企業のみならず、インフォーマル・セクターや家内工業を含めた労働者数や生産額を把握する必要があるとしており、生産動態統計調査も、この要望に対応したものとしてほしいと要望した。

しかしながら、月次生産動態統計は、「足下の景気動向を把握する」ことが目的であり、迅速性が求められているため、インフォーマル・セクターや家内工業を含めた大量の対象

事業所に対して調査を実施することは適当ではない。また、フィリピン側の要望を満たす統計は、日本には存在しない。従って、先方の要望に対応する統計の作成は困難であると先方に説明を行った。

(3) 生産動態統計調査の範囲

生産動態統計調査の範囲として、フィリピン側は、agro-based industry（食品加工業のみならず、「生のバナナ」といった農産物も含む）、サービスセクターも含めてほしいと要望したが、最終的には、製造業の重要性や、統計調査の迅速性確保の観点から⁶、製造業を対象とすることで合意した。

(4) 生産動態統計の対象事業所

生産動態統計調査は事業所ベースで行い、対象事業所は約600～700事業所程度を想定することで、双方合意した。現行のMISSIの対象事業所が中心となるが、若干の事業所は入れ替えを行うこととなる見込みである。

(5) 生産動態統計調査の公表

生産動態統計調査の分析は、早期公表を行うため、「どのサブセクター・品目群・品目が、上昇・下降等の変動要因か」といった基本的な統計分析であり、マクロ経済分析、経済・産業予測、政府の政策指針については、公表に含まれない、と日本側は説明し、フィリピン側は合意した。

(6) 工業指数の開発

既述のとおり、下請けを含めた産業全体の労働生産性を出してほしい、とのフィリピン側の要望はあったが、最終的には、開発調査では、生産、出荷、在庫、在庫率指数を作成することとして合意した。

また、その他2種類の指数の作成を行うこととしたが、どの指数を作成するかについては、具体的にはその信憑性や可能性によって判断することとした。

⁶ 農業やサービス業を含めた場合、全国に分布し、中小・零細規模が多いと想定されることから、迅速性確保の観点から、生産動態統計調査には含まない。

4. その他、フィリピン側と協議した結果

(1) 共同作業の条件

フィリピン側は、開発調査は、全てにおいて共同作業によって実施し、日本側コンサルタントやローカルコンサルタントだけでは実施することは認められない、とした。これに対し、日本側は、基本的には了解したが、以下の点を実施の条件とした。また、以下の項目は、フェーズ1の共同作業についてのみ言及している。⁷

1) 共同作業の経費

フィリピン側は、プリテスト調査をNSOに委託してほしい、C/Pを地方から呼ぶ経費を負担してほしい等の要望を出したが、日本側としては、NSOであれ、C/P個人であれ、支払うことはできないため、これらの予算を用意するよう、説明した。

実際に、C/Pのローカルコストの負担が生じるのは、2001年からであり、2001年の予算要求作業は既に開始しているものの、まだ、追加で認められる可能性がある(NSCB談)とのことであり、フィリピン側も獲得に注力するという意向を表明している。

2) 共同作業への参加者

日本側は、現行のMISSI、センサス、年次調査を担当する部署からの参加を依頼し、フィリピン側は合意した。

3) 現行調査の個票の使用

日本側は、品目や事業所の選定等に必要であることから、調査団及び調査団が雇用する秘書が、「守秘義務を負い、他の目的には使用しない」という条件下において、現行の調査(MISSI、センサス、年次調査)の個票を閲覧、転記、データ加工することを許可するよう要望し、フィリピン側は合意した。

(2) 機材の供与

フィリピン側は、トヨタ・ハイ・エース2台及びコンピューター20台の機材供与を要請していた。調査団からは、開発調査では、調査団が開発調査実施用機材を調達した場合、

⁷ 日本側は、フェーズ2におけるシステム開発の共同作業は、「システム設計」の部分のみと考えているため(「1. 開発調査の枠組み(2) システム開発」参照)。

調査終了時に、先方政府の要請に基づき、機材を供与することはあるが、先方政府が使用する目的のために機材を供与することは行っていない旨、説明を行った。

日本側は、「当案件は、調査団は車両を借り上げることで対応可能であることから、トヨタ・ハイ・エース2台は、調査用資機材には含まれない。また、コンピューターについても、調査団が使用するのに必要な台数に限られ、20台にはならない。」と説明を行い、最終的には、先方の同意を得た。

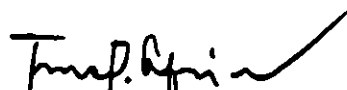
以上

附属資料 1

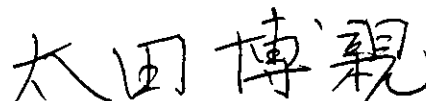
Minutes of Meeting

Minutes of Meeting
between
the National Statistics Office
of the Republic of the Philippines
and
the JICA Project Formation Study Team
on
a Study on Development of Industrial Statistics
in
the Republic of the Philippines

Manila, 21 March, 2000



Mr. Tomas P. Africa
Administrator
National Statistics Office
Republic of the Philippines



Mr. Hirochika Ota
Leader
Project Formation Study Team
Japan International Cooperation
Agency

A project formation study team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Hirochika Ota, visits the Republic of the Philippines from 21st of February to 22nd of March, 2000, in order to have preliminary discussions with the Philippines authorities concerned on a prospective development study project of development of industrial statistics in the Republic of the Philippines.

The Team had a series of discussions on the subject matter with representatives of the National Statistics Office (hereinafter referred to as "NSO"), and other Philippines authorities concerned (hereinafter referred to as "the Philippines side").

This minutes of meeting summarizes the major points discussed and agreed on in the series of meetings.

I. Conclusion

(1) Framework of the development study project

The Team and the representatives of the Philippines authorities (hereinafter referred to as "both sides") discussed the framework of the development study project, based on the request from the Philippines side, presentation paper prepared by the Team, and the results of a preliminary review of the statistical system in the Philippines conducted by the Team.

The development study project will be implemented in two phases: Phase I and Phase II. Phase I will devoted to developing a monthly current survey of production (hereinafter referred to as "the Current Survey") and its industrial indices, and Phase II, to supporting NSO to conduct the Current Survey through system development, evaluation of the Current Survey, formation of indices, and other technical transfer to NSO for conducting the Current Survey. However, the development study project will go on to Phase II on the conditions that

- Phase I are successfully completed,
- NSO conducts the Current Survey as its regular duties by its own budget, and
- system development will be done only by the Japanese side, if system development is included in Phase II.

Conducting of Phase II and its details will be discussed between the both government at a later stage when the above-mentioned conditions are completed.

The Philippines side wishes to express its desire that in the system development, use of software in the public domain will be studied. This would free the NSO of the need to pay for license after the project completion. The Team expressed their concern that under

the above-mentioned condition, JICA will not be able to find a consultant that will conduct the Study. Both sides agreed this matter would be settled before Phase II.

From the point of view of improving industrial statistics in the Philippines and putting the technical assistance to practical use, the Philippines side expressed their intention to make necessary arrangements to conduct the Current Survey.

(2) Scope of the Study

After extensive discussions, both sides came to agree on scope of the development study project -Phase I (hereinafter referred to as "the Study") as shown in chapter II below.

(3) Further steps to follow

The Team stated that it is prepared, upon its return to Japan, to recommend the Government of Japan to take up the Development Study, based on the agreement reached as mentioned above. If the Government of Japan decides to proceed with the Study through an inter-ministerial meeting, JICA will send another preliminary mission to the Philippines on May or June, 2000, for a week. The purpose of the mission will be to sign and exchange the Implementing Arrangement: I/A (=Scope of Work: S/W), which defines the scope, the contents and method of the Study and the undertakings of both parties.

II. Scope of the Study

Both sides agreed with objective, scope of the Study, and undertakings of the Philippines side and the Japanese side as below.

(1) Objective of the Study

The objective of the Study is to develop a reliable and timely monthly industrial Current Survey and the industrial indices in the Republic of the Philippines.

Technical transfer from Japanese specialists in industrial statistics to the Philippines counterparts is expected throughout the process of the Study.

(2) Scope of the Study

In order to achieve the above objectives, the Study will cover the

following items:

1. Development of the Current Survey
 - 1-1 Review of existing industrial statistics
 - 1-2 Design of method of the Current Survey
 - 1-3 Selection of manufacturing sub-sectors, commodities, and establishments for the Current Survey
 - 1-4 Design of the questionnaires
 - 1-5 Preparation of the manuals for the implementation and examination work (check on and correction of the collected questionnaires) for person in charge
 - 1-6 Preparation of manuals/guidance for responders
 - 1-7 Implementation of pretest survey
 - 1-8 Review of the results of the pretest survey and elaboration of the questionnaires and the selected establishments
 - 1-9 Consideration of the monthly schedule of the Current Survey
 - 1-10 Consideration of the publish/dissemination method
 - 1-11 Formulation of the action plan for realization the Current Survey

2. Development of the monthly indices of industrial production
 - 2-1 Selection of the commodities for the indices
 - 2-2 Calculation of the weight for the indices
 - 2-3 Development of the industrial indices
 - 2-4 Formulation of the publish/dissemination method

(3) Undertakings of the Government of the Philippines

1. The Government of the Philippines shall accord privileges, exemptions, and other benefits to the Japanese consultant team selected by JICA for the Study (hereinafter referred to as "JICA Study Team") in accordance with the Agreement of Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of the Philippines.

2. To facilitate smooth conduct of the Study, the Government of the Philippines shall take necessary measures:
 - 2-1 to secure the safety of the JICA Study Team;
 - 2-2 to permit the members of the JICA Study Team to enter, leave and sojourn in the Philippines for the duration of their assignment therein, and exempt them from alien registration requirements and consular fees;
 - 2-3 to exempt the members of the JICA Study Team from taxes, duties and other charges on equipment, machinery and other materials brought into the Philippines for the conduct the Study;
 - 2-4 to exempt the members of the JICA Study Team from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with any emoluments or allowances paid to the members of the JICA

Study Team for their services in connection with the implementation of the Study;

- 2-5 to provide necessary facilities to the JICA Study Team for remittance as well as utilization of the funds introduced into the Philippines from Japan in connection with the implementation of the Study;
- 2-6 to secure permission for entry onto private properties or into restricted areas for the conduct of the Study;
- 2-7 to secure permission for the JICA Study Team to take all data and documents (including photographs) related to the Study out of the Philippines to Japan, and
- 2-8 to provide medical services as needed. Medical expenses will be chargeable to members of the JICA Study Team

3. The Government of the Philippines shall bear claims, if any arise, against members of the JICA Study Team resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with, the discharge of their duties in the implementation of the Study, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the members of the JICA Study Team.

4. NSO shall, at its own expense, provide the JICA Study Team with the following, in cooperation with other organizations concerned:

- 4-1 available data and information related to the Study
- 4-2 counterpart personnel,
- 4-3 suitable office space with necessary equipment in Manila, and
- 4-4 credentials or identification cards.

(4) Undertakings of JICA

For the implementation of the Study, JICA shall take the following measures:

- to dispatch, as its own expense, study teams to the Philippines, and
- to pursue technology transfer to the Philippines counterpart personnel in course of the Study.

III. Contents of the Current Survey and its industrial indices

Both sides agreed the contents of the Current Survey which would be formulated by the Study.

(1) Relation to the Monthly Integrated Survey of Selected Industries (hereinafter referred to as "MISSI")

(The Team proposed that the Current Survey is conducted apart from MISSI. The Current Survey and MISSI are complement

each other.

The Philippines side, however, proposed that the two surveys, the MISSI and the Current Survey, be integrated into one monthly survey to minimize the burden on responding establishments.)

(2) Survey items

Items for the Current Survey on basis of commodity are principally based on volume base as follows:

- Production volume and production value,
- Shipment volume, and
- Inventory volume.

Following survey items to be considered

- Receipts volume
- Shipment volume divided into "Domestic Sales", "Export", and "Other shipment"
- Monthly productive capacity

As the Current Survey on the basis of commodity is useful for both public and private users but causes very tough/hard work for statistical officials, it should be considered carefully to make simplified survey items in order to secure providing reliable and timely industrial survey for users.

(3) Scope of the Current Survey

Scope of the Current Survey sector is manufacturing sector. Individual questionnaires by industry will be prepared by the JICA Study Team. The Current Survey is on bases of establishment.

Classification of the Current Survey is based on PSIC 1994 which follows ISIC Rev. 3.

(4) Target establishments for the Current Survey

The Current Survey is on an establishment base. The number of establishments for the Current Survey is approx. 600-700 establishments because of its possibility. JICA Study Team will examine appropriate establishments for the Current Survey. Most target establishments of the Current Survey will be probably selected from the target establishments of MISSI as a result. Some of the establishments are added or deleted, however.

(5) Publication/Dissemination of the results of the Current Survey

Analysis work for the publication/dissemination of the results of the Current Survey covers basic statistical analysis such as which

sub-sector/commodity group/commodity contributed to the growth, etc. for keeping timeliness which is one of the most important factor for the Current Survey. Either macro economic analysis, economical/industrial forecast, or definite guideline for governmental policy action, is not be included in the publication/dissemination.

(6) Development of indices of industrial production

The following industrial indices will be formulated by the Study.

- Production volume index by sub-sector/commodity and the total of manufacturing sector
- Shipment volume index by sub-sector/commodity and the total of manufacturing sector
- Inventory volume index by sub-sector/commodity and the total of manufacturing sector
- Index of producer's inventory ratio (=Inventory/Shipment) by sub-sector/commodity and the total of manufacturing sector

Two indices based of the Current Survey (ex. capacity utilization index, employment index, or others) will be added by the Study. The additional indices will be selected during the Study, according to examining their reliability and their possibility.

IV. Other Important Considerations

(1) Conditions of the joint work

Both sides agreed that the Study would be conducted by JICA Study Team and NSO counterparts by way of joint work and JICA Study Team would transfer technology to NSO counterparts throughout the process of the joint work.

Both sides agreed that the joint work for Phase I would be done under the conditions below. Conditions of Phase II will be discussed at a later stage.

1. Expenses for the joint work

Any counterpart expenses to participate in the joint work will not be paid for to either NSO or counterpart personnel by the Japanese side. Expenses for the joint work (ex. honoraria, overtime pay, travel expenses, and so on) should be prepared by NSO.

2. Participants

Staff from Economic Analysis Division (MISSI section) and Industry Statistics Division (Census of Establishments (hereinafter referred to as "CE") section and Annual Survey of Establishments (hereinafter referred to as "ASE") section) should participate the joint work.

fu
to
WA

3. Permission for utilization of individual questionnaires

NSO should permit the JICA Study Team and their secretaries hired in the Philippines to utilize (ex. reading, transcription, data processing, and so on) collected individual questionnaires of MISSI, ASE and CE for the Study.

The JICA Study Team should observe confidentiality and never use them for any other purposes.

(2) Pretest survey

Both sides recognized that pretest survey is necessary for the purpose of elaboration of the questionnaires and design of method of the Current Survey. Therefore both sides agreed that pretest survey will be done for three months in the course of the Study as mentioned below.

1. Process of the pretest survey

Planning and designing of the pretest survey will be done by the joint work. Pretest survey will be conducted apart from MISSI, since the Current Survey are supposed to be conducted in the same way as mentioned in chapter III. Distribution and collecting of questionnaires will be conducted by a local consulting firm/organization by contract with JICA Study Team. Data processing may be conducted by the local consulting firm/organization.

2. Area and number of the target establishments of the pretest survey

The target establishments will be selected from the area of Metro Manila and a few provinces. The number of the target establishments of the pretest survey will be approx. 600 establishments.

3. Publication of the pretest survey

The results of the pretest survey will be only for inner use.

(3) Collaboration with other agencies

Both sides recognized the importance of close coordination among Philippines relevant organizations, such as National Statistical Coordination Board and Department of Trade and Industry, for efficient and effective implementation of the Study, and the realization of conducting the Current Survey. Both sides agreed that NSO shall act as a coordination body in relations with other governmental and non-governmental organizations concerned.

(4) Equipment

The Team said the following matter about the donation of

equipment, and the Philippines side understood its situation:
A Development Study Project has not any component of direct donation of equipment to the recipient country. However, in some cases, a JICA study team purchases necessary equipment used for the study and donate them to the recipient country at the end of the study by its request. 2 Toyota High-Ace requested by the Philippines side will not be necessary for the JICA Study Team because rental cars hired by the Team will be enough for conducting a such kind of the study. It means that donation of 2 Toyota High-Ace will not be part of the Study. It will be possible to use computer(s) by the Team, 20 computers are too many to use, however.

ja

方田

附属資料 2

フィリピン生産統計の現状

目次

1. フィリピン国の統計機構および統計組織の概要.....	25
1.1. 産業統計に関わる法制度.....	25
1.2. 国家統計局 (National Statistics Office: NSO)	27
1.2.1. 国家統計局の構成.....	28
2. 生産統計に関わる組織と所管業務.....	29
2.1. 産業貿易統計部 (Industry & Trade Statistic Department: ITSD)	29
2.1.1. 経済分析課 (Economic Analysis Division: EAD)	29
2.1.2. 工業統計課 (Industry Statistics Division: ISD)	30
2.2. 情報資源部 (Information Resources Department: IRD)	31
2.2.1. IT (情報技術) システム調査課 (IT Systems & Research Division: ITSRD)	33
2.2.2. IT オペレーション課 (IT Operations Division).....	33
2.2.3. データバンク、情報サービス課 (Databank & Information Services Division)	33
2.3. 統計調査に係わる地方組織.....	34
2.3.1. National Capital Region.....	35
3. 産業統計および工業生産指数.....	36
3.1. 事業所センサス (Census of Establishment: CE) の概要.....	36
3.1.1. 製造業事業所センサス.....	37
3.2. 年次事業所調査 (Annual Survey of Establishment: ASE)	39
3.2.1. 製造業年次事業所調査.....	40
3.3. 四半期事業所調査 (Quarterly Survey of Establishment: QSE)	41
3.3.1. 製造業の四半期事業所調査.....	42
3.4. 月次特定産業統合調査 (Monthly Integrated Survey of Selected Industries: MISSI)	43
3.4.1. 調査対象業種と事業所の選択方法.....	44
3.4.2. 調査方法および処理.....	46
3.4.3. 調査票の質問項目.....	47
3.5. 工業生産指数 (Indices of Industrial Production: IIP)	48
3.5.1. 生産額指数 (VaPI)	49
3.5.2. 生産者価格指数 (PPI)	50
3.5.3. 生産数量指数 (VoPI)	51

4. 情報処理システム.....	52
4.1. 国家統計局(NSO)のコンピュータシステム.....	52
4.1.1. ハードウェア.....	52
4.1.2. ソフトウェア.....	54
4.1.3. ネットワーク.....	56
4.1.4. 使用環境.....	57
4.2. コンピュータ関連調査.....	59
4.2.1. ハードウェア.....	59
4.2.2. ソフトウェア.....	60
4.2.3. 通信.....	60
4.2.4. ソフトウェアハウス.....	61
5. 統計利用者、現地コンサルに関わる調査.....	63
5.1. 統計利用者.....	63
5.2. 現地コンサルタント.....	65
6. 本格調査実施に関わる留意事項.....	67
6.1. カウンターパート.....	67
6.2. 統計調査について.....	67
6.3. コンピュータシステムとソフト開発.....	69

1. フィリピン国の統計機構および統計組織の概要

主要な統計に関わる政府機関は以下に示す4つの機関から構成されている。

(1) 国家統計調整庁 (National Statistics Coordination Board: NSCB)

国家統計調整庁は、統計の作成における政策の策定、責任の配分、統計調査の調整、公式統計の出所の指定および基準の作成を担当する機関である。また、国民総生産、国民所得や地域所得を含む国民経済計算、産業連関表、および経済指数、社会政策に関する各部門にまたがる指標の作成も NSCB の担当になっている。

さらに、一般の統計利用者が公式統計をアクセスすることが可能で、また統計サービスを受けるために設置されている「国家統計情報センター (National Statistical Information Center: NSIC) 運営も NSCB の所管になっている。

(2) 国家統計局 (National Statistics Office: NSO)

国家統計局は、人口統計やその他人口移動統計、労働力統計および失業率、貿易統計、事業所統計、家計収支統計、消費者物価指数等の国家の基本的な統計を担当する機関である。さらに、出生届け等の住民登録も所管している。

(3) 農業統計局 (Bureau of Agricultural Statistics: BAS)

農業統計局は、農業統計作成を担当する機関であり、作付面積統計、農業物流価格統計、農業技術統計、農業金融投資統計、水産統計、農業労働力統計等の農業一般に関わる統計全般を担当している。

(4) 労働力・雇用統計局 (Bureau of Labor and Employment Statistics: BLES)

労働力・雇用統計局は、事業所単位の労働力統計を担う機関として、労働移動、労働能力、労働災害・傷病、および賃金率の調査を所管している。

1.1. 産業統計に関わる法制度

事業所センサス、年次事業所調査、四半期事業所調査、月次製造業調査 (MISSI) 等の事業所調査は Commonwealth Act No 591、Presidential Decree 418、Executive Order No 121、および Executive Order No 352 等の法律のもとに調査は施行されている。

(1) 共和国法 591 号 (共和国統計収集活動強化に係る統計センサス局設置法) Commonwealth Act No 591

特に、当該局に人口、農業、工業及び商業に係る全てのセンサスを計画し、実施する権限を付与する。

同法は統計調査に係わる機密保持について以下のように規定している。

・ 統計調査実施者への規定

センサス及び統計機関に提供されたデータは、厳格に機密にされ、課税、規制または、調査の目的で司法上の証拠として使用してはならず、センサス及び統計機関の規定の職員以外、かれらの正当性を証明する目的で何人にも開示してはならず、さらに、これらのデータが総括又は統計表以外で公にされてはならず、この場合も個人、個別企業、協会、パートナー、機関、または、企業を特定出来る形となってはならない。

本規定に違反する者は、処罰され、最高 600 ペリの罰金又は最高 6 ヶ月の収監又は、この両方の処罰を受ける。

・ 調査対象者への規定

同法は、対象者に物的に真実のデータを提供することを求め、かつ、何人にもセンサス及び統計当局から送付された質問状又は調査票を記入し、30日以内に郵送することを拒絶しないこと、何人も質問票を後日、事実と異なると証明される様なデータに意図的に加工すること、または、質問票が署名される時点において、真実でないことを意図的に行った者は、処罰され、最高 600 ペリの罰金又は最高 6 ヶ月の収監、または、この両方の処罰を受ける

(2) 大統領令 418 号 (Presidential Decree 418)

国家経済開発庁 (NEDA) の管理下に、従来の国家センサス統計局 (NCSO) に変わるセンサス統計局を新規に創設する。

(3) 施行令 121 号 (Executive Order No 121)

通称フィリピン統計システム改革法で、NCSO を国家統計局 (NSO) と改称し、汎用目的のための統計収集、および国家統計調整庁 (NSCB) が企画するセンサスならびに調査の実施に係る主要な機関とする。

(4) 施行令 352 号 (Executive Order No 121)

政府および民間の意志決定に必要な不可欠のデータを発行する統計活動の規定。当該統計はリストによる。

1.2. 国家統計局 (National Statistics Office: NSO)

1998年に発令された、Executive Order 5 (Strengthening the National Statistics Office) によって国家統計局の強化策が打ち出されている。その趣旨は、公的機関のみならず私企業、海外からの統計に対する需要の高まりに対応すべく、人材の再教育、組織の改編、情報技術への対応等の強化策が挙げられている。しかし、現在は情報資源課が部に昇格した程度である。

産業統計調査の実施所管部署は、産業貿易統計部 (Industry & Trade Statistics Department) の工業統計課 (Economic Analysis Division)、ビジネス・サービス統計課 (Business & Service Statistics Division) および経済分析課 (Economic Analysis Division) である。そのうち、製造業に係わる統計を担当している部署は、工業統計課と経済分析課の2つの課である。その他の関連部署としては、調査結果のデータ入力、事業所リストの管理等統計調査のデータ処理関連業務を担当する情報資源部 (Information Resources Department) と調査票の配布、収集を担当する統計地方事務所である。

1.2.1. 国家統計局の構成

図 1.2.1 に国家統計局の構成図を示す。

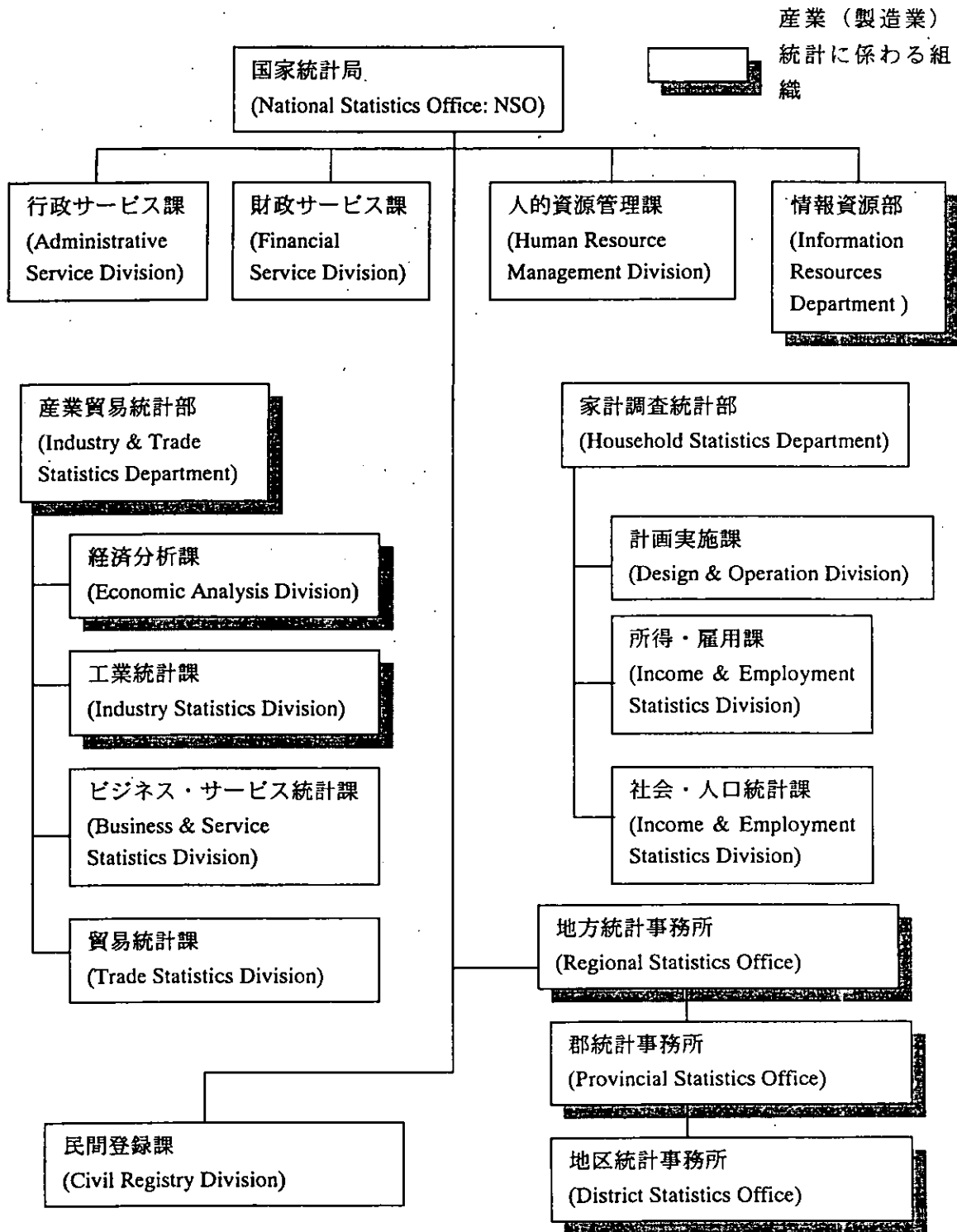


図 1.2.1 国家統計局構成図

2. 生産統計に関わる組織と所管業務

国家統計局が生産統計に関わる統計を所管しており、生産統計に関わる部署は、産業貿易統計部の工業統計課および経済分析課、情報資源部、統計地方事務所である。

2.1. 産業貿易統計部 (Industry & Trade Statistic Department: ITSD)

産業貿易統計部は、経済分析課、工業統計課、ビジネス・サービス統計課、ならびに貿易統計課の4つの課から構成されている。そのうち製造業の統計調査に関わる課は、経済分析課と工業統計課の2つの課である。

2.1.1. 経済分析課 (Economic Analysis Division: EAD)

経済分析課は、部門別調査調査研究班 (Sectoral Studies Section) と物価統計班 (Price Statistics Section) の2つの班から構成されている。

経済分析課の総職員数 50 名

- 1) 課職員：課長1名で班の職員がサポート
- 2) 経済分析課の主要業務の概要
 - ・ 経済統計の分析
 - ・ 物価統計の作成
 - ・ 工業統計の作成
 - ・ 物価統計の利用への指導への技術的サポート
 - ・ 工業統計および物価統計に適用される各種標準ならびに分類システムの適用に関する指導者の派遣
 - ・ 産業連関表の分析

(1) 部門別調査班 (Sectoral Studies Section: SeSS)

- 1) 職員数：17名
- 2) 主要業務
 - ・ MISSIの統計調査の実施と調査結果の集計、分析結果の公表・出版
 - ・ 工業生産指数の作成 (VaPI：生産額指数、PPI：生産者価格指数、VoPI：生産数量指数)
 - ・ 産業連関表の分析

- ・ 経済統計に関する調査、分析
- ・ 産業部門への標準および分類システムの適用に関する専門技術援助ならびに専門家派遣による支援

(2) 物価統計班 (Prices Statistics Section: PIS)

- 1) 職員数：22名
- 2) 主要業務
 - ・ 各種物価統計（CPI：消費者物価指数、WPI：卸売り物価指数、RPI：小売物価指数等）の作成と公表
 - ・ 物価統計に関わる標準および分類システム設定への技術的・人的支援

2.1.2. 工業統計課 (Industry Statistics Division: ISD)

工業統計課は、製造班 (Manufacturing Section) と非製造班 (Non- Manufacturing Section) の2つの班から構成されている。

課総職員数は57名

- 1) 課職員数：5名
- 2) 主要業務
 - ・ 「農業・林業」、「水産業」、「鉱業・土石採掘業」、「製造業」、「電気・ガス・水道業」、「建設業」の各業種の事業所センサス (Census of Establishment: CE)、年次事業所調査 (Annual Survey of Establishment)、四半期事業所調査 (Quarterly Survey of Establishment) の計画の準備
 - ・ 各事業所調査の管理
 - ・ 各部門のセンサス、年次調査、四半期調査に基づく統計の作成、公表、出版等の管理

(1) 製造業班 (Manufacturing Section)

- 1) 職員数：26名
- 2) 主要業務
 - ・ 製造業の事業所センサス、年次事業所調査、四半期事業所調査の調査実施
 - ・ 上記3つの事業所調査結果から担当産業分野の統計の作成、公表、出版
 - ・ 事業所リストの維持・更新
- 3) 統計調査対象業種

製造業

(2) 非製造業班 (Non-Manufacturing Section)

- 1) 職員数：26名
- 2) 主要業務
 - ・ 事業所センサス、年次事業所調査、四半期事業所調査の調査実施
 - ・ 上記3つの事業所調査に基づく担当産業分野の統計の作成、公表、出版
 - ・ 事業所リストの維持・更新
- 3) 調査対象業種
「農業・林業」、「水産業」、「鉱業・土石採掘業」、「電気・ガス・水道業」、
「建設業」

2.2. 情報資源部 (Information Resources Department: IRD)

(1) 情報資源部の主要業務

- ・ 情報技術(IT: Information Technology)資源に関する技術的な勧告を長官に行う
- ・ 情報技術と情報の普及の方針・方法・標準化を立案する
- ・ 情報資源、情報技術、データベースとネットワークシステムの開発・維持・支援を行う
- ・ NSO の活動と公表の普及・推進を行う
- ・ データ入力、コンピュータの操作や保守作業を提供して、現場および中央オフィスの計算とその技術的な支援を行う

(2) 情報資源部の組織

IT (情報技術) システム調査課 (IT Systems & Research Division: ITSRD)、IT オペレーション課 (IT Operations Division)、データバンク、情報サービス課 (Databank & Information Services Division) の3つの課から構成されている。

情報資源部 (IRD) の組織図を図 2.2.1.に示す。

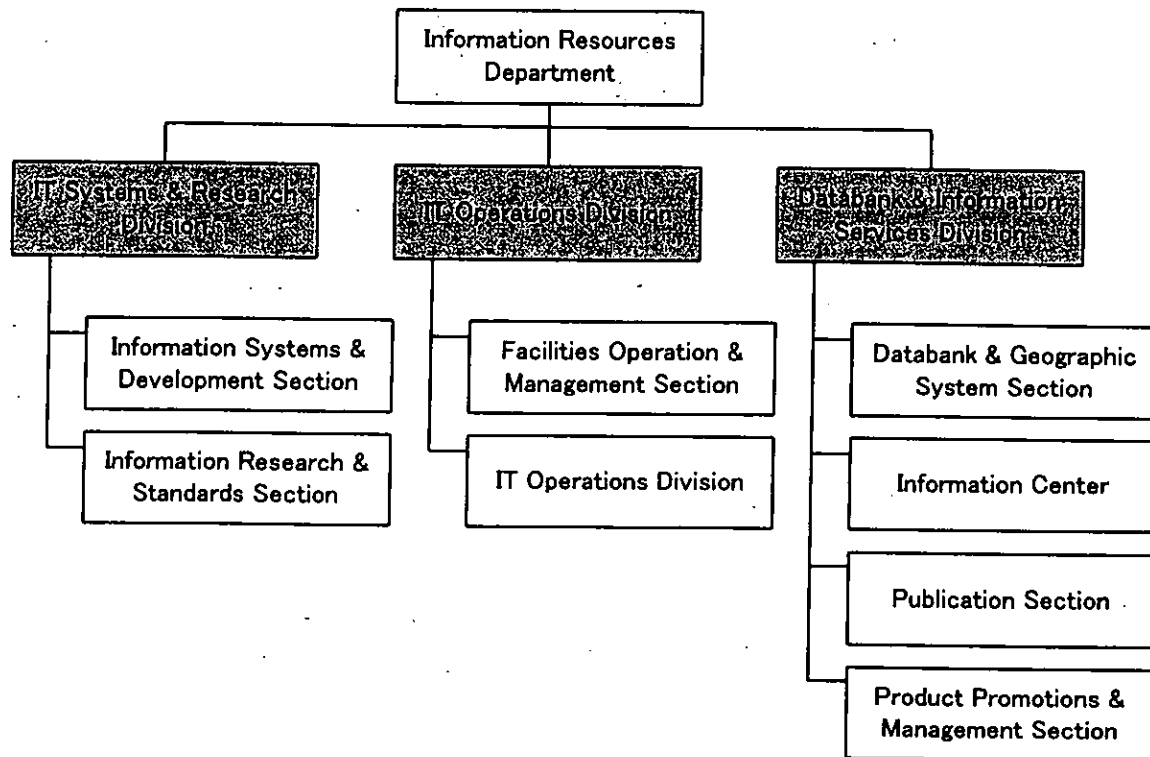


図 2.2.1. 情報資源部の組織

(3) 人員構成

表 2.2.1. に情報資源部の人員構成と充足数を示す。

表 2.2.1. 情報資源部の人員構成

資格給	IT 技術職	定員	充足数
24	情報技術職員 III	2	2
22	情報技術職員 II	2	1
19	情報技術職員 I	4	3
19	情報システムアナリスト III	2	2
18	コンピュータ・プログラマー III	7	7
15	コンピュータ・プログラマー II	23	15
11	コンピュータ・プログラマー I	2	2
14	情報システム研究職員 II	1	1
14	コンピュータ操作員 IV	2	2
12	コンピュータ操作員 III	5	4
9	コンピュータ操作員 II	2	2
13	データ入力マシン操作員 IV	2	2
11	データ入力マシン操作員 III	3	3
8	データ入力マシン操作員 II	35	35
6	データ入力マシン操作員 I	11	6
13	データ管理員 IV	1	1
11	データ管理員 III	1	1
10	コンピュータファイル管理員 II	2	2
	合計	107	91

2.2.1. IT（情報技術）システム調査課（IT Systems & Research Division: ITSRD）

(1) 主要業務

- ・ IT 関連の局内標準化
- ・ IT 技術の評価、勧告および NSO 内への普及活動と訓練
- ・ NSO 内で使用する応用システムの開発と保守を行う
- ・ 情報システム戦略の立案、設計と実施

(2) システム開発

チームアプローチ方法によってシステム開発を行っている。その概要を以下に示す。

- ・ 各チームは、3～6名で構成
- ・ 情報システムアナリストがリーダーとなり、全体の設計と開発の責任を持ち、チームメンバーを管理する
- ・ シニア・プログラマー(Computer Programmer III)は、チームリーダーを補助するとともに、システムの設計とテストの責任を持つ
- ・ 他のメンバーは、各プログラムとそのテストの責任を持つ

2.2.2. IT オペレーション課 (IT Operations Division)

(1) 主要業務

- ・ ネットワーク基盤の管理
- ・ コンピュータと周辺装置のインストール、管理と保守
保守用予算が少ないため、パソコンの修理ラボを持ち修理を外注せず内部で行っている。さらに、パソコンが古いものから新しいものまで混在しているため、DOS、Windows から Linux までとシステムの管理対象が広い。
- ・ データ入力サービス
- ・ 情報基盤のセキュリティと運転監視

2.2.3. データバンク、情報サービス課 (Databank & Information Services Division)

(1) 主要業務

- ・ NSO 統計データのユーザへのサービス
- ・ NSO 統計データの更新・維持

- ・ オンライン統計データの更新・維持
- ・ 調査統計データの出版、マーケティング、キャンペーン一部の統計データを CD に焼き付け販売している

2.3. 統計調査に係わる地方組織

地方組織は、15ヶ所の統計統計事務所（Regional Statistics Office）、その配下に79ヶ所の郡統計事務所（Provincial Statistics Office）、さらにその配下に254ヶ所の地区統計事務所（District Statistics Office）が全国にあり完全なピラミッド構造になっている。調査票の配布、収集はこれらの事務所を通して行われる。現在、地方統計事務所または群統計事務所で回収調査票のコンピュータによるデータ処理する分散処理計画が進められている。

(1) 地方統計事務所（Regional Statistics Office）

主要業務を以下に示す。

- ・ 群統計事務所の職員のトレーニング
- ・ 地区統計事務所への予算管理
- ・ 調査業務の管理
- ・ 四半期調査の調査結果のコンピュータ処理（2001年から開始予定）
- ・ 群統計事務所から送られてくる調査票の管理

(2) 郡統計事務所（Provincial Statistics Office）

主要業務を以下に示す。

- ・ 調査員のトレーニング
- ・ 調査員への業務配分と管理
- ・ 収集調査票の審査
- ・ 収集調査票のデータ処理（手計算またはコンピュータによる処理）

(3) 地区統計事務所（District Statistics Office）

主要業務を以下に示す。

- ・ 調査票の配布・収集
- ・ 調査対象事業所から調査票を回収する際の審査
- ・ 配布および回収調査票の管理

2.3.1. National Capital Region

この地方事務所の担当地域は、首都圏近郊であり人口密度も高く調査対象も多い地域である。さらに産業統計に関しては、大中規模の事業所が集中しており、NCR1 から NCR6 までの 6ヶ所の District Office を管轄している。

その集中事例として、月次特定産業統合調査である MISSI の調査対象事業所 630 のうち、約 68%にあたる 429 事業所を担当している。その内訳は以下の通りである。

NCR 1 :	36 事業所
NCR 2 :	67 事業所
NCR 3 :	103 事業所
NCR 4 :	56 事業所
NCR 5 :	90 事業所
NCR 6 :	17 事業所

なお、国家統計局の調査票のコンピュータによる分散処理推進策に対しては、調査票の配布・収集の数が非常に多く、処理用のコンピュータも要員が少ないため調査票を処理する余裕がない状況にある。